



BENEFIT JAPAN

2022年3月期 第3四半期決算説明資料 (2021年4月1日～2021年12月31日)

株式会社ベネフィットジャパン
(証券コード：3934)

22年3月期第3四半期 決算ハイライト 連結損益計算書サマリー

- 契約回線数が着実に増加しストック売上が伸長、前期比**20.1%**の増収
緊急事態宣言の長期化やロボット事業への先行投資による人員コスト等が増加しつつも
前期比**7.4%**の増益（経常利益）着地

(百万円)

	21年3月期3Q		22年3月期3Q			
	金額	構成比	金額	構成比	前期比	前期比増減
売上高	7,247	100.0%	8,704	100.0%	+20.1%	+1,457
売上総利益	4,172	57.9%	4,844	55.7%	+16.1%	+672
販管費	3,107	43.5%	3,691	42.4%	+18.8%	+584
営業利益	1,064	14.4%	1,152	13.2%	+8.3%	+87
経常利益	1,092	15.0%	1,173	13.5%	+7.4%	+80
親会社株主に帰属する 当期純利益	748	9.9%	757	8.7%	+1.2%	+8

22年3月期第3四半期 セグメント別業績サマリー

(百万円)

		21年3月期 3Q	22年3月期 3Q	増減率	増減額
売上高		7,247.2	8,704.5	+20.1%	+1,457.3
	モバイルWi-Fi	5,913.5	6,838.2	+15.6%	+924.6
	ロボット	872.3	1,485.0	+70.2%	+612.6
	その他	461.2	381.3	△17.3%	△79.9
営業利益		1,064.8	1,152.7	+8.3%	+87.8
	モバイルWi-Fi	1,247.3	1,553.3	+24.5%	+306.0
	ロボット	77.6	△165.9	—	△243.6
	その他	92.8	78.6	△15.3%	△14.1
	全社費用	△353.0	△313.3	—	39.7

※21年3月期の全社費用には各従業員の業績に対する賞与引当金を計上、22年3月期は業績に対する賞与引当金を各セグメントに振り分けて計上しております

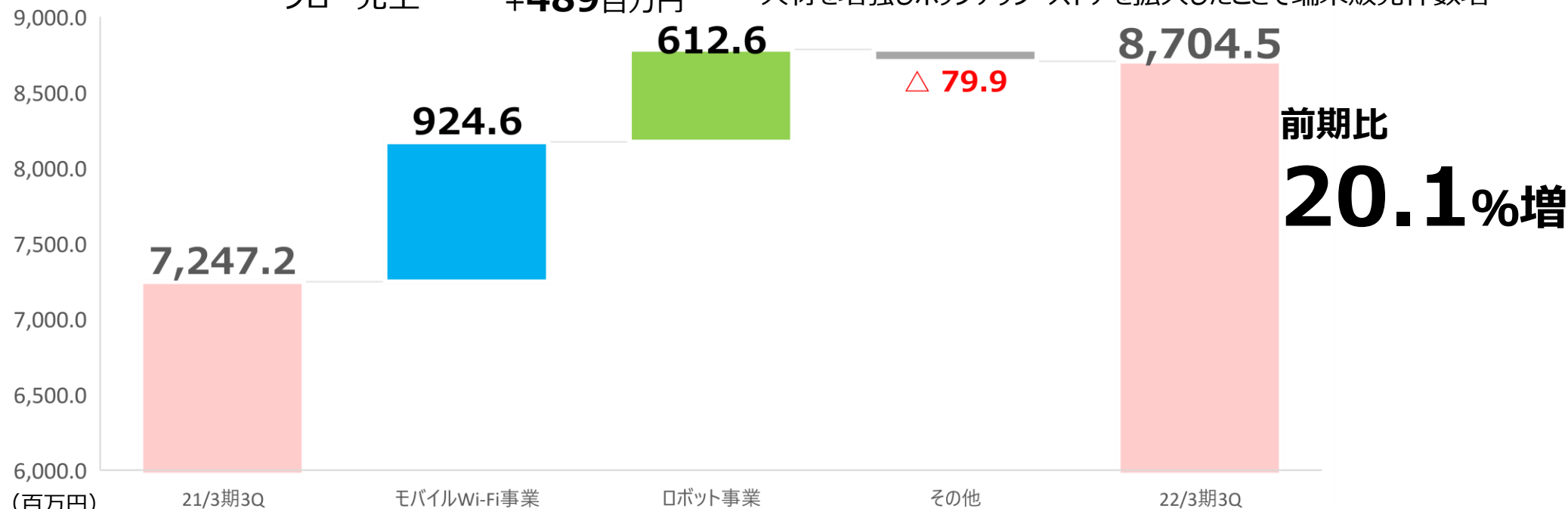
22年3月期第3四半期 セグメント別売上高増減分析

●モバイルWi-Fi事業

増収要因	ストック売上	+1,025百万円	契約回線数が伸びたことで通信料やオプション利用料の売上増加
	フロー売上	+340百万円	法人のテレワーク需要増加やオンライン授業による学校等からの申込みが増加しレンタル事業が引き続き好調
減収要因	フロー売上	△441百万円	対面販売においては緊急事態宣言の長期化が生産性に影響し苦戦 価格競争が激化しWEB販路の新規獲得件数減少

●ロボット事業

増収要因	ストック売上	+123百万円	契約回線数が伸びたことで通信料やオプション利用料の売上増加
	フロー売上	+489百万円	人材を増強しポップアップ・ストアを拡大したことで端末販売件数増



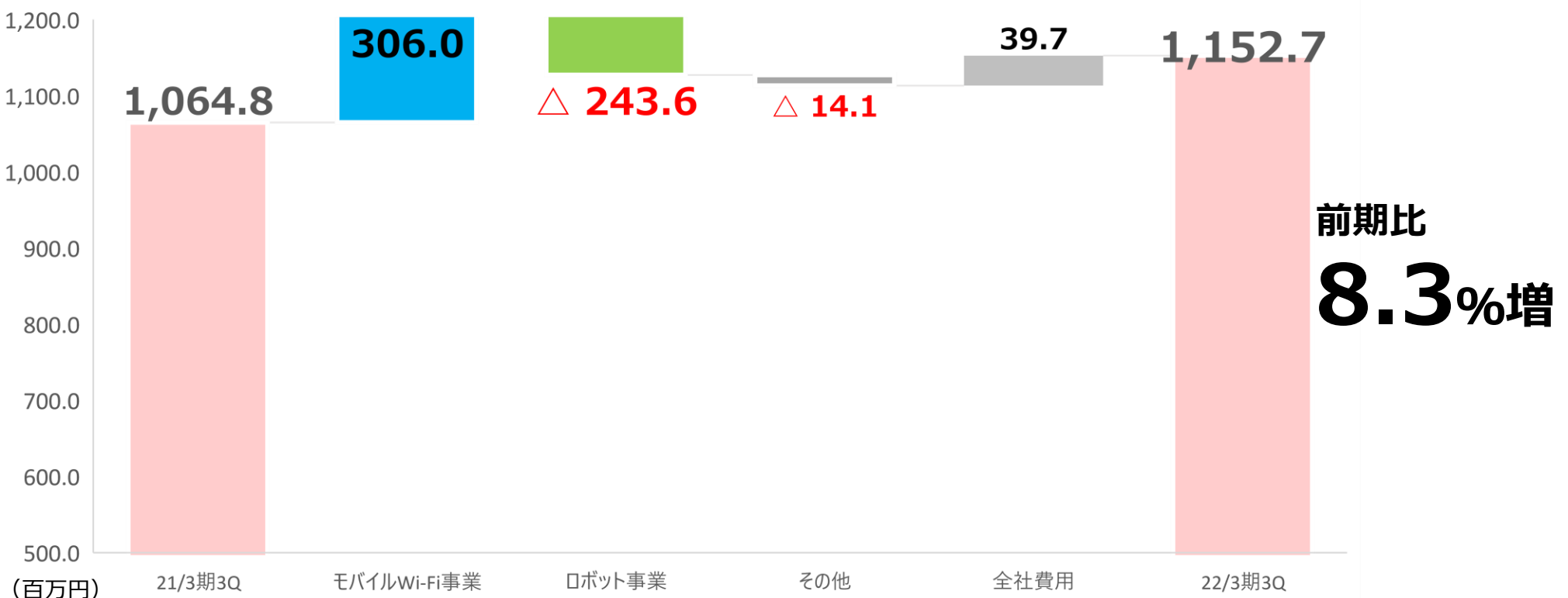
22年3月期第3四半期 セグメント別営業利益増減分析

●モバイルWi-Fi事業

契約回線数の堅調な増加及びレンタル利用増加が利益押し上げに寄与

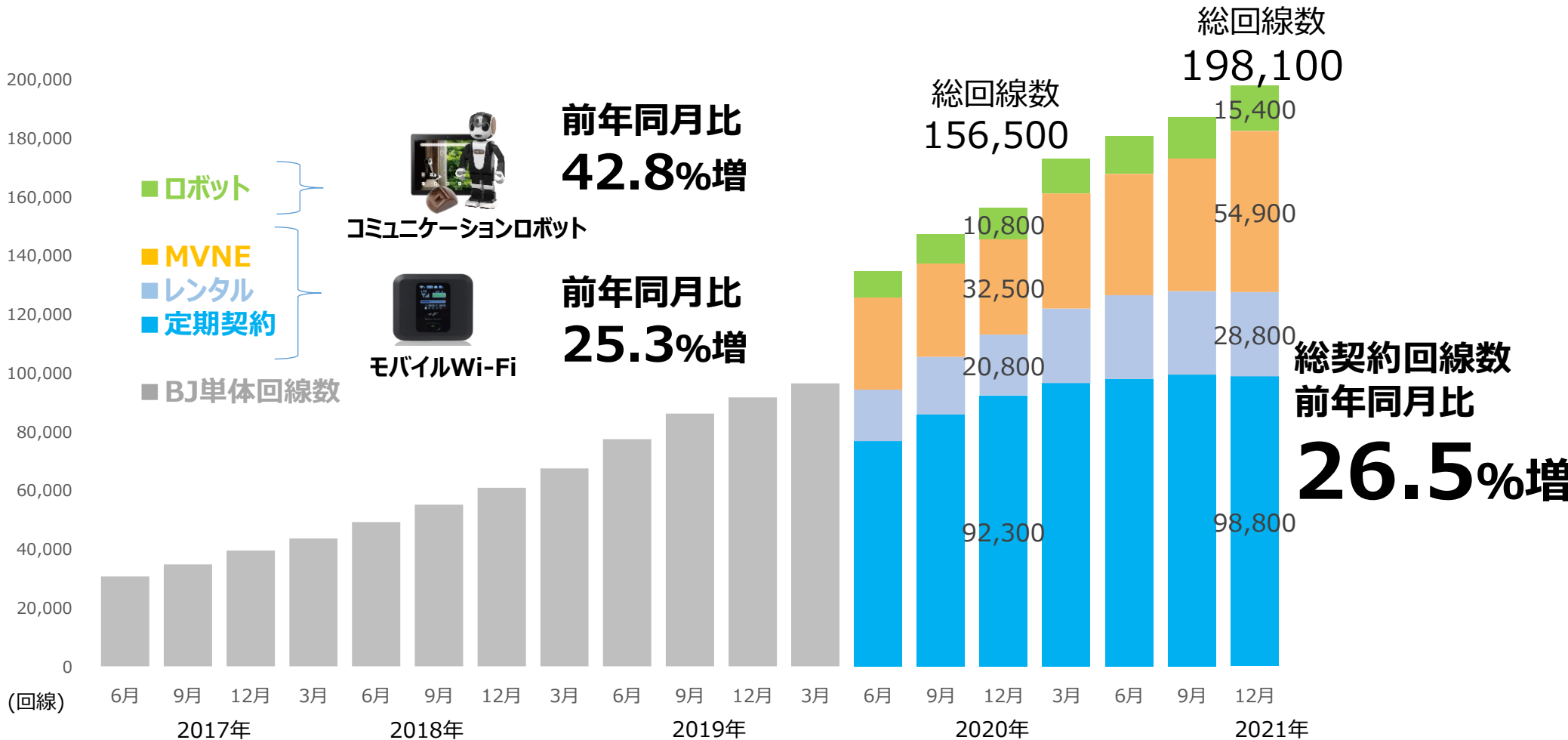
●ロボット事業

契約回線数増加に向けた先行投資費用による減益要因（ストック収益は着実に増加）



契約回線数の推移

● 契約回線数は、モバイルWi-Fi事業およびロボット事業ともに前年同月から着実に増加



※ 2020年3月までは、ベネフィットジャパン単体の回線数
 2020年6月以降は、ベネフィットジャパングループの回線数（区分）

22年3月期 業績予想に対する進捗・見通し

- 緊急事態宣言の影響により売上高が進捗率72.2%にとどまったが、業績予想に対する第3四半期の進捗は概ね計画通りに推移

(百万円)

	2022年3月期		
	3Q実績	通期計画	進捗率
売上高	8,704	12,059	72.2%
売上総利益	4,844	6,585	73.6%
販管費	3,691	5,079	72.7%
営業利益	1,152	1,505	76.6%
経常利益	1,173	1,519	77.2%
親会社株主に帰属する 当期純利益	757	997	75.9%

“Connecting to the Future” (未来を繋ぐ)

すべての人々にテクノロジーの恩恵を

Benefit of Technology to All People!

笑顔でつなぐ、

みんなの未来

BENEFIT JAPAN